

医師は語る



医療法人社団 健翔会
堀口医院医師 堀口 裕

生涯健康のままで

今日の医療を手短に表現すれば「病気を見つけて、病気を治療する」医療であります。例えば血液検査を行って肝臓の数値が異常であれば、それは既に肝臓病ということになります。もしも脳のMRI検査を行って脳梗塞の痕(あと)が見つかれば、それは何の症状が無くとも陳旧性(古い)脳梗塞という病名が付きます。つまり今日行われている検査を何千回、何万回行っても、それは所詮病気を見つける検査に留まります。そして幾ら沢山の病気を見つけて治療できたとしても、病気は次から次と現われ、決して病気は無くならないのです。

点から言えば「老衰で終わる」ことに匹敵します。では老衰のごとく終わるには、一体どうすれば良いのか。それは簡単なことです。「病気にならないければよい」のです。でも残念ながら、先ほど申し上げましたが、今日の医療は病気を見つける医療と言ったばかりです。分かったときは既に何らかの病気という診断なのです。この矛盾を解決するためには、病気になる前に病気の芽を摘むことしかありません。あるいは病気の根っこを絶えず引き抜いて、病気が起らないようにするしかありません。

それでは病気の根っこはどこに生えるかといえ、それは体の「細胞」です。人の体はどこでも全て細胞で出来ていて、細胞に病気の根が生えるのです。ですから細胞がいっぱい満点の元気度なら、私たちは病気にはなりません。私たちが生涯健康で満足した人生を送るためには「病気の根っこを見つけて、病気の根っこを治療する」、そういう医療でなければなりません。これを「根元の医療」と言いますが、その対象は常に「細胞」なのです。

生涯健康で過ごす方法

根元の医療で細胞の治療に必要なのは、電子(でんし)です。電子と聞いただけでは、大変堅苦しい感じがしますが、多分ほとんどの方はテレビや冷蔵庫などの家電製品、あるいは工場の機械などが動くときに「電気が流れている」様子を想像するでしょう。でもいっぺん頭をリセットして下さい。電子は、普段私たちが食べているご飯の中に沢山入っています。あるいは私たちが吸っている空気の中にも沢山含まれています。そのことに殆どの方が気づいていないだけなのです。私たちが知らないうちに細胞に生える病気の根っこが、食べ物や空気の電子によって絶えず抜き取られていくのです。しかし、余りにも病気の根っこが多過ぎると、電子が足りず病気の細胞になってしまいます。その時必要なのが電子を補充するという考え方です。病気の根っこを抜き取る電子を十分に与えて、細胞の元気度を満点にしておこうというものであります。そうすれば病気は起こらないだろう、そしてやがて老衰のごとくいけるだろうという考え方です。この電子を補充する治療を「還元電子治療」と言います。もう誕生して二〇年近くになります。これ

【堀口裕先生プロフィール】
北海道北見市出身。川崎医科大学卒。一九九二年、香川県坂出市に医療法人健翔会堀口医院開院。「細胞内診療」の第一人者。世界で初めて細胞の中を調べる「細胞内検査」を独自に考案。世界各国で特許を取得。また細胞のコンディショニングを整える「還元電子治療」を独自に開発。現在、体の状態を多角的に調べ、根本的な治療を目指す最先端の「自己防御力診断」を駆使し、全国で一万五千人以上の患者の治療に取り組む傍ら、全国で講演活動を行っている。